

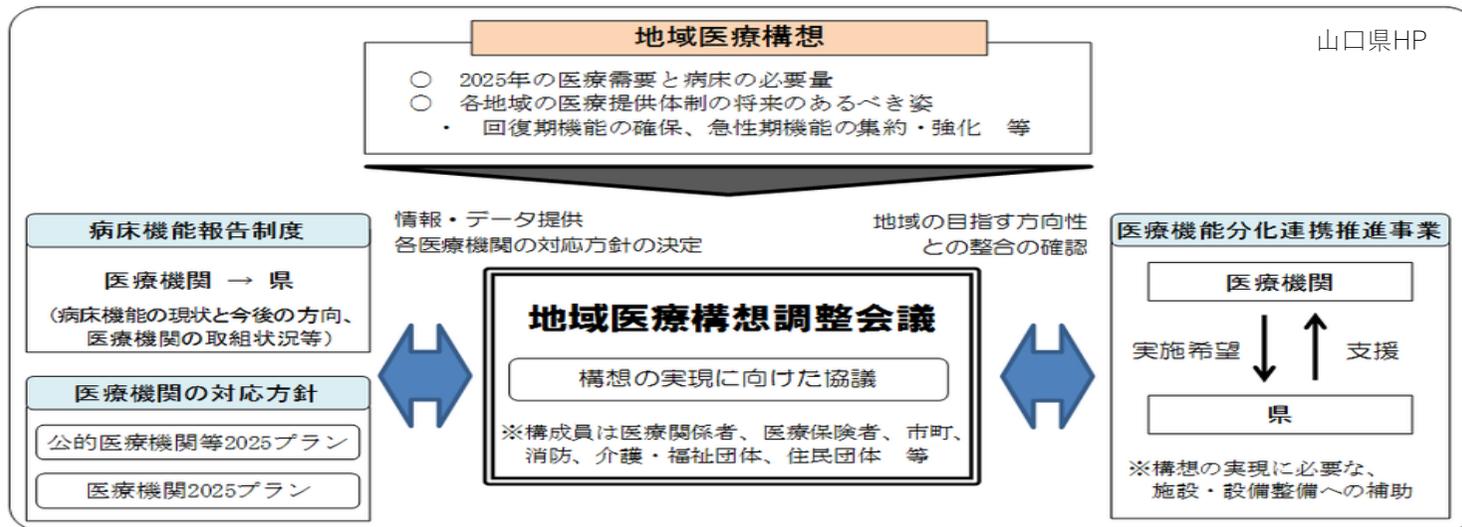


# 地域医療構想について



## ▶ 地域医療構想とは

将来人口推計をもとに2025年（令和7年）に必要な病床数（病床の必要量）を4つの医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組



## ● 4つの医療機能

- ✓ 高度急性期・・・診療密度が特に高い医療を提供する機能（救急救命病棟、HCUなど）
- ✓ 急性期・・・急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けた医療機能
- ✓ 回復期・・・急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーション機能など
- ✓ 慢性期・・・長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能など

# ● 医療関係者の協議(地域医療構想調整会議)

## 地域医療構想調整会議の役割 (医療法抜粋)

三十条の十四 都道府県は、構想区域その他の当該都道府県の知事が適当と認める区域ごとに、診療に関する学識経験者の団体その他の医療関係者、医療保険者その他の関係者との協議の場を設け、関係者との連携を図りつつ、医療計画において定める将来の病床数の必要量を達成するための方策その他の地域医療構想の達成を推進するために必要な事項について協議を行うものとする。

## 議論する内容

医療圏ごとに、病床機能報告制度における医療機関の報告内容と地域医療構想で推計された必要病床数を比較し、地域において優先的に取り組むべき事項の協議や、国の基金の活用等について検討。

- ①地域の病院・有床診療所が担うべき病床機能に関する協議
- ②病床機能報告制度による情報等の共有
- ③県計画に盛り込む事業に関する協議
- ④その他地域医療構想の達成の推進に関する協議

## 萩医療圏地域医療構想調整会議委員 (R2.4.1～R4.3.31)

種類	役職名	氏名
医療	萩市医師会	綿貫 篤志
	萩市医師会副会長	玉木 英樹
	萩市医師会副会長	安藤 静一郎
	萩市医師会 (医療計画担当)	中嶋 薫
	萩市医師会 (在宅療養支援診療所)	兼田 健一郎
	萩市歯科医師会会長	門田 晴江
	阿武歯科医師会専務理事	石川 千春
	萩薬剤師会長	柏木 一宏
	山口県看護協会萩支部長	後根 恵美香
萩慈生病院長	八木田 眞光	

種類	役職名	氏名
医療	都志見病院長	亀田 秀樹
	萩市民病院長	米澤 文雄
	萩むらた病院副院長	村田 麻里子
	全真会病院長	中村 勝昭
	萩病院長	小野 信周
	萩市国保診療所	佐久間 暢夫
保険 保健	県後期高齢者医療広域連合事務局次長	山田 典子
	訪問看護ステーション管理者	阿武 由美子
福祉	萩市社会福祉協議会長	大島 昌子
	萩広域介護支援専門員連絡協議会長	中山 京子

種類	役職名	氏名
福祉	特別養護老人ホーム施設長	中原 康人
受療	萩市連合婦人会長	藤家 幸子
	阿武町奈古婦人会長	林 輝美
行政	連合山口萩地区会議役員	大田 美紀子
	萩市福祉部長	岩武 明司
	萩市保健部長	田中 慎二
	阿武町健康福祉課長	羽鳥 純香
	萩市消防本部消防長	鶴屋 弘

事務局：山口県萩健康福祉センター

## ▶ 山口県の地域医療構想 《2016年（平成28年）7月策定》

地域における医療提供体制の将来のあるべき姿を示し、地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携の推進を図る

### ● 構想の区域

- ・ 8区域の二次保健医療圏を設定



構想区域（二次保健医療圏）	構成市町
岩国保健医療圏	岩国市、和木町
柳井保健医療圏	柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町
周南保健医療圏	下松市、光市、周南市
山口・防府保健医療圏	山口市、防府市
宇部・小野田保健医療圏	宇部市、美祢市、山陽小野田市
下関保健医療圏	下関市
長門保健医療圏	長門市
萩保健医療圏	萩市、阿武町

## ➤ 萩医療圏について

### ● 医療機能別病床数(病院・有床診療所別)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
萩市民病院	-	100	-	-	100
都志見病院	-	118	57	59	234
玉木病院	-	40	-	111	151
萩むらた病院	-	16	-	60	76
萩慈生病院	-	-	-	144	144
全真会病院	-	-	-	54	54
花宮医院	-	16	-	-	16
なかむらレディース	-	10	-	-	10
見島診療所	-	2	-	-	2
計	0	302	57	428	787

2021年(令和3年)7月現在

### ● 地域医療構想における必要病床数との比較

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
萩医療圏の病床数	0	302	57	428	787
地域医療構想における必要病床数	24	178	181	232	615
比較	(不足)▲24	(過剰)124	(不足)▲124	(過剰)196	(過剰)172

## ●地域の医療提供体制の将来のあるべき姿(抜粋)

### 高度急性期・急性期機能

- 離島や山間部に集落が多く点在するため、他圏域の医療機関も含め、機能と役割を明確化した上で、可能な限り圏域内で診療できる体制の整備が必要です。
- 特に、高度急性期医療の一部及び急性期医療並びに二次救急医療については、圏域内で完結できるよう、急性期病院の機能再編・統合等による医療機関の整備、機能強化及び効率化の推進が必要です。
- 脳血管疾患や循環器疾患への対応の充実強化が必要です。
- 離島や山間部の救急搬送体制の充実強化が必要です。
- 産科と小児科の一体的提供体制の整備が必要です。
- 医療機能の効率的・効果的な発揮のため、初期・二次救急医療の役割分担の明確化と適正受診に向けた住民啓発が必要です。

### 回復期機能

- 圏域において不足している回復期機能を確保するため、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等の専門職の確保及び回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟等の整備が必要です。

## ➤ これまでの萩医療圏地域医療構想調整会議での主な意見

### ■H29年度第1回病床機能等検討部会(R29.7.3)

- 「圏域で中核となる病院の検討が何よりも重要である。」「急性期機能を持つ病床規模の大きい病院同士で「中核となる病院」の検討を進めてほしい。」との意見があった。

### ■H30年度第2回病床機能等検討部会(H30.12.6)

- 地域の急性期を担う病院稼働率が低い状況であるため、萩市民病院が2025プランに掲げる、地域の中核病院として民間病院・診療所との統合を含めた検討を、地域の最重要課題として取り組む必要がある。

### ■H30年度第2回萩医療圏地域医療構想調整会議(H31.2.21)

- 萩圏域の中核病院の再編統合については、脳神経外科や夜間の重症患者受入等の地域に必要な医療機能の確保やへき地医療支援の機能強化、医師や看護師等の確保に向けた魅力ある病院づくり等の観点から、行政と民間が一体となり、検討を進めることが必要。

—— (R元.11.26 萩市民病院と都志見病院との統合による中核病院形成の検討を始めることを萩市が発表) ——

### ■R元年度第2回病床機能等検討部会(R元.12.17)

- 萩圏域における今後の医療需要等を考えると、再編統合を進め、中核病院を形成しようとする考え方は理にかなっている。病院再編のあり方のモデルケースとなると考える。

### ■R元年度第2回萩医療圏地域医療構想調整会議(R2.1.30)

- いきなり病院統合が前面に出ているが、市は病院経営の状況や税金の使われ方など様々な情報を発信し、地域住民の意見を踏まえながら、地域住民が納得するよう十分な説明責任を果たして欲しい。

- 萩市医師会として、萩保健医療圏の住民が求めるであろう中核病院のあり方を検討し、萩市医師会案として臨時総会で可決した。萩市が設置する中核病院形成検討委員会でも、中核病院のあり方について意見が出てくるので、これらの意見を踏まえ、地域医療構想調整会議を最終的な協議の場として議論を進めていきたい。